

檀原市の環濠集落の変遷と居住者意識に関する研究



緑地計画学
今中 大貴

研究背景

環濠集落

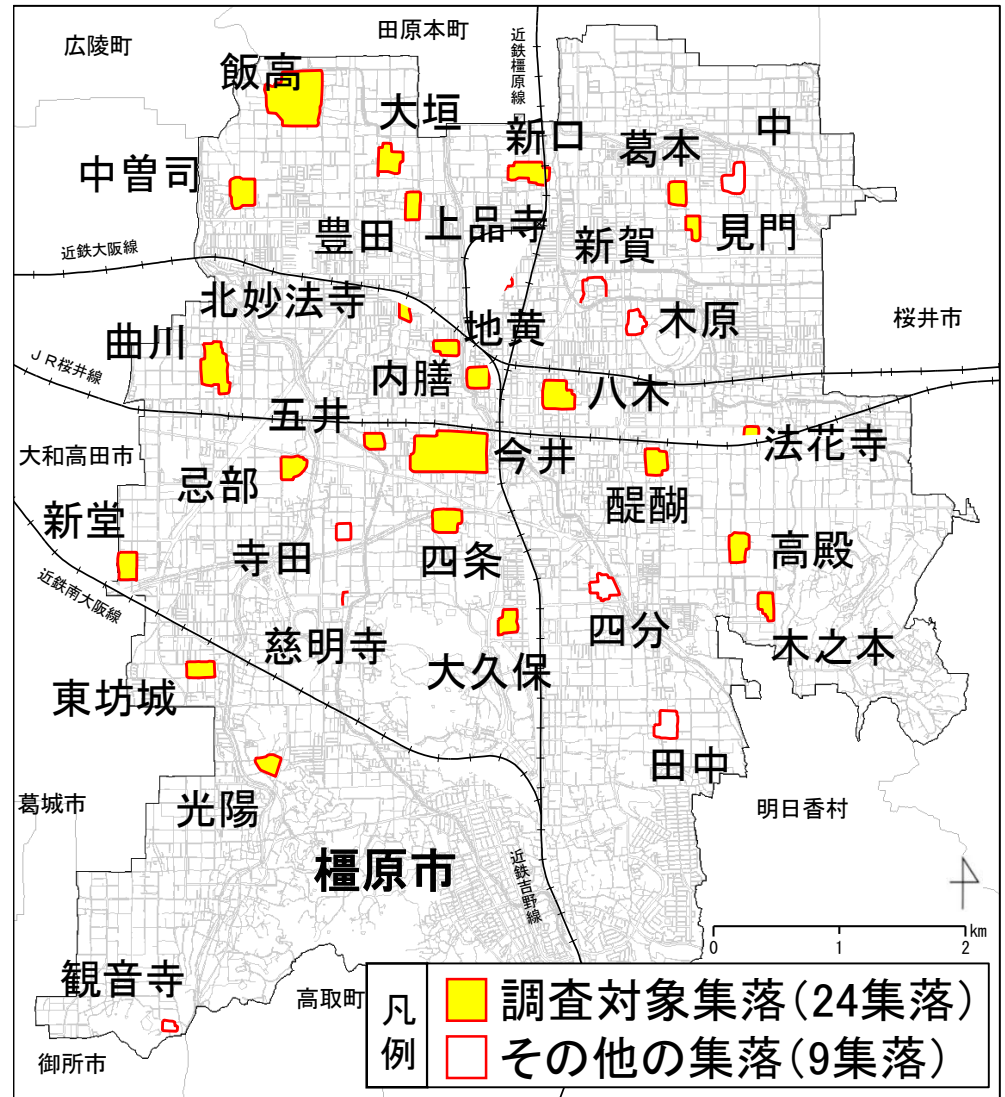
古代や中世といった乱世における自衛の手段として、集落の周囲に濠をめぐらしている集落

橿原市における環濠集落

橿原考古学研究所によると、市内に33の環濠集落が存在しており、中世より受け継がれてきた、市を特徴づける集落形態である。しかし、環濠の役割は時代とともに変化し、現在では殆ど役割を持たず、その存在が危ぶまれている。

研究目的

橿原市の環濠の変遷と居住者意識を明らかにすることにより、今後の環濠集落の保全に向けた課題と方向性を探る。



橿原市内の環濠集落及び調査対象集落の位置図

研究の進め方

第1章 研究背景と目的

- ・ 研究対象集落の設定

第2章 各集落の環濠の変遷(図上調査、現地調査)

- ・ 土地利用の変遷
- ・ 環濠の変遷

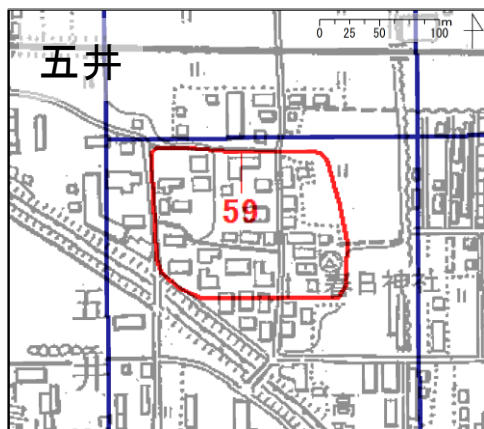
第3章 環濠周辺の居住者意識(アンケート調査)

- ・ 環濠に対する意向
- ・ 帰属意識
- ・ 領域感

第4章 今後の環濠集落の保全に向けた課題と方向性の考察

環濠の位置特定、環濠の状態と土地利用の変遷の把握

遺跡情報地図(発行: 榎原考古学研究所)



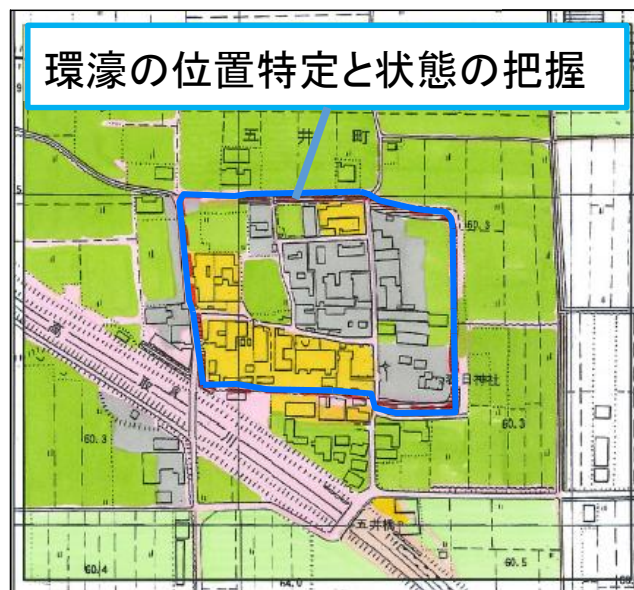
凡例 □ 環濠集落 — 藤原京跡

地籍図(五井: 明治19年)



凡例
 社地 道路 堤防 田 畑
 宅地 池,川,溝 荒地 墓地

1:2500白地図(昭和42年)

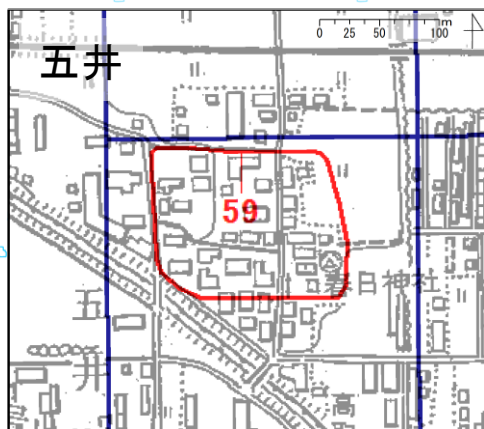


凡例
 宅地 農地 公共用地
 その他 □ 不明 — 環濠

高度経済成長期以前(昭和40年以前)
 地籍図(明治8年~昭和35年)

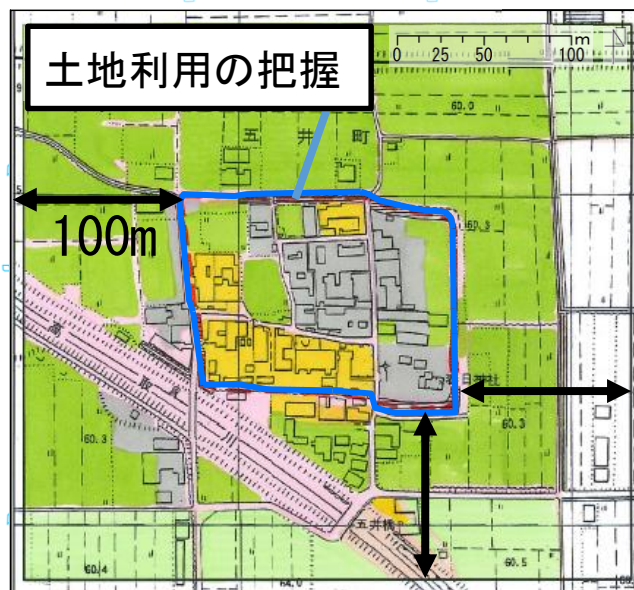
環濠の位置特定、環濠の状態と土地利用の変遷の把握

遺跡情報地図(発行: 榎原考古学研究所)



凡例 □ 環濠集落 — 藤原京跡

1:2500白地図(昭和42年)



凡例
 ■ 宅地 ■ 農地 ■ 公共用地
 ■ その他 □ 不明 — 環濠

地籍図(五井: 明治19年)

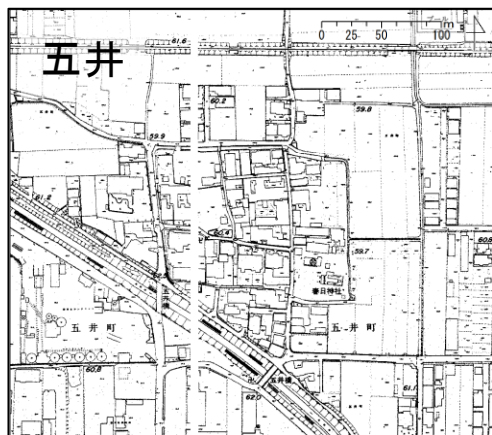


凡例
 ■ 社地 ■ 道路 ■ 堤防 ■ 田 ■ 畑
 ■ 宅地 ■ 池,川,溝 ■ 荒地 ■ 墓地

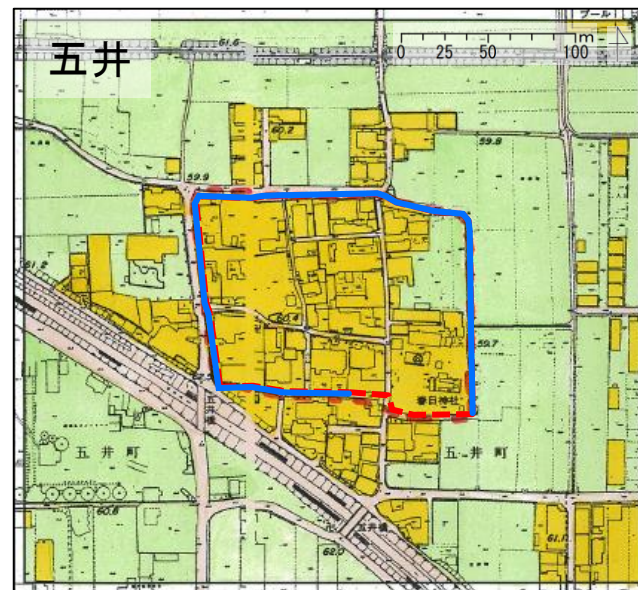
高度経済成長期以前(昭和40年以前)
 地籍図(明治8年~昭和35年)

環濠の位置特定、環濠の状態と土地利用の変遷の把握

1:2500白地図(昭和61年)



1:2500白地図(昭和61年)

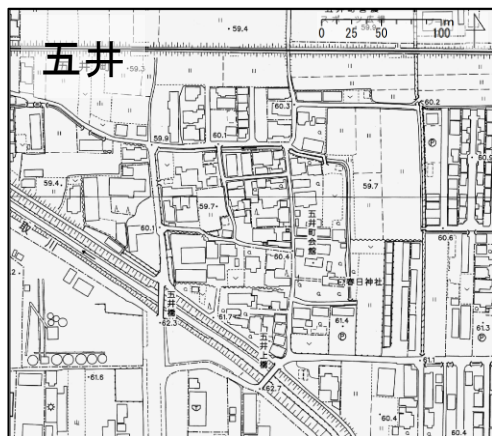


凡例	■ 宅地	■ 農地
	■ 公共用地	■ その他 □ 不明
	— 開渠	- - 消失区間

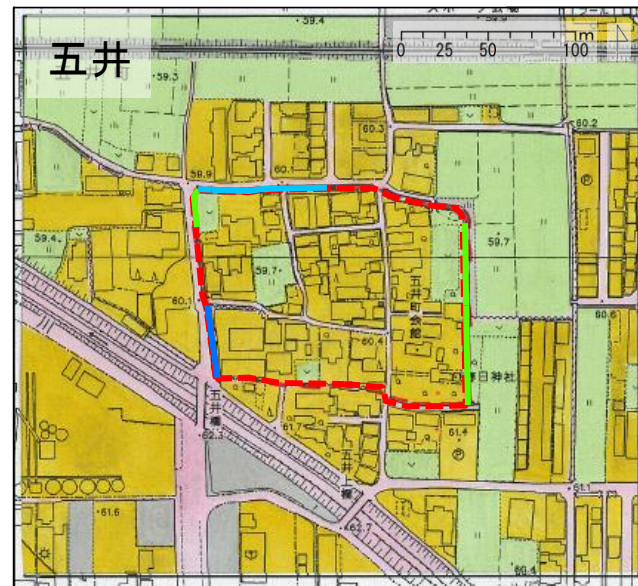
高度経済成長期直後(昭和60年頃)
1:2500白地図(昭和61年)

環濠の位置特定、環濠の状態と土地利用の変遷の把握

1:2500白地図(平成18年)



1:2500白地図(平成18年)



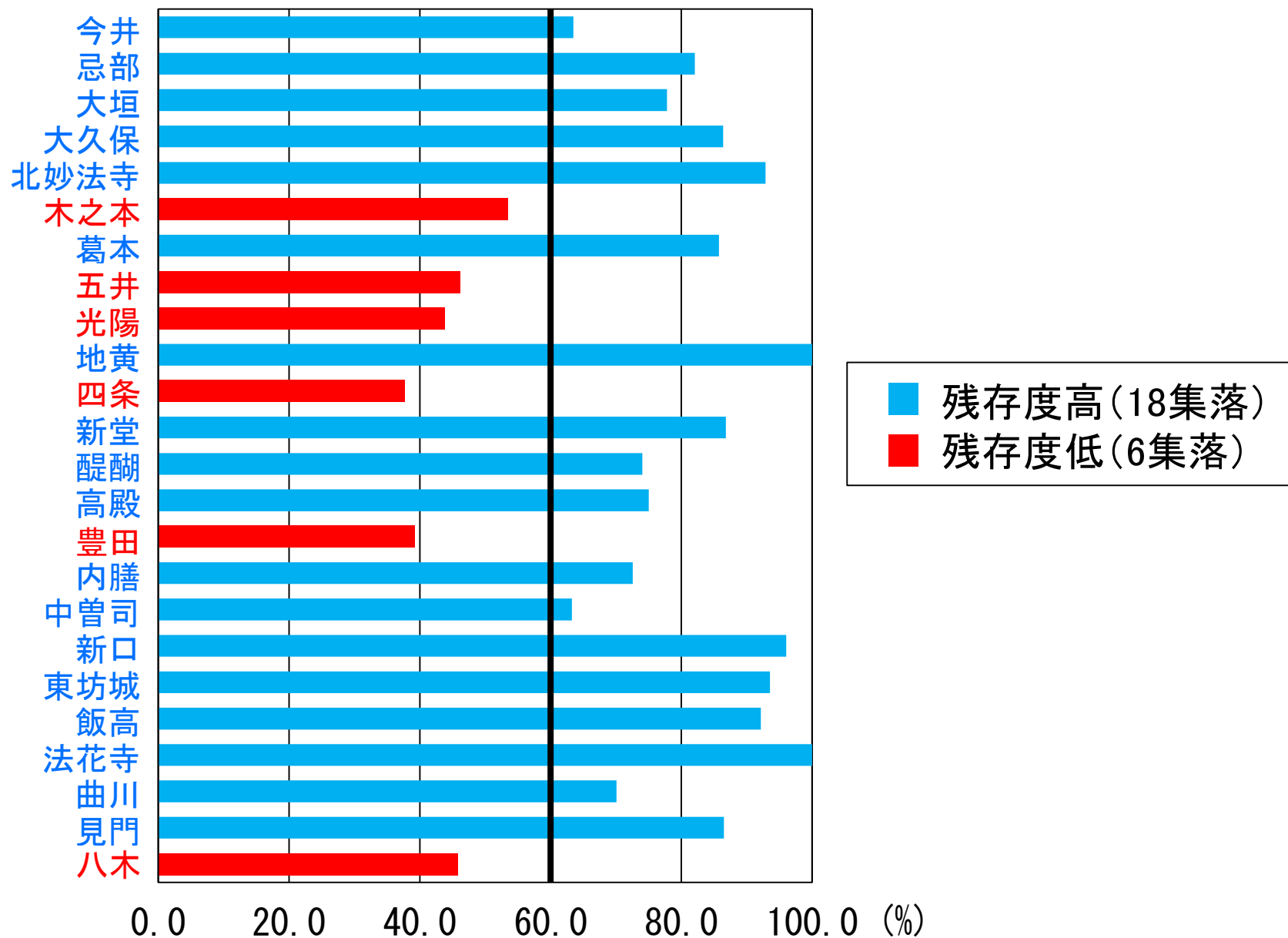
現地調査

凡	■ 宅地	■ 農地	■ 公共用地	■ その他	□ 不明
	— 開渠(幅2.0m以上、深さ1.0m以上)	— 開渠(幅2.0m以上、深さ0.5m以上1.0m未満)	— 開渠(幅1.0m以上2.0m未満、深さ0.5m以上1.0m未満)	— 消失区間	
例					

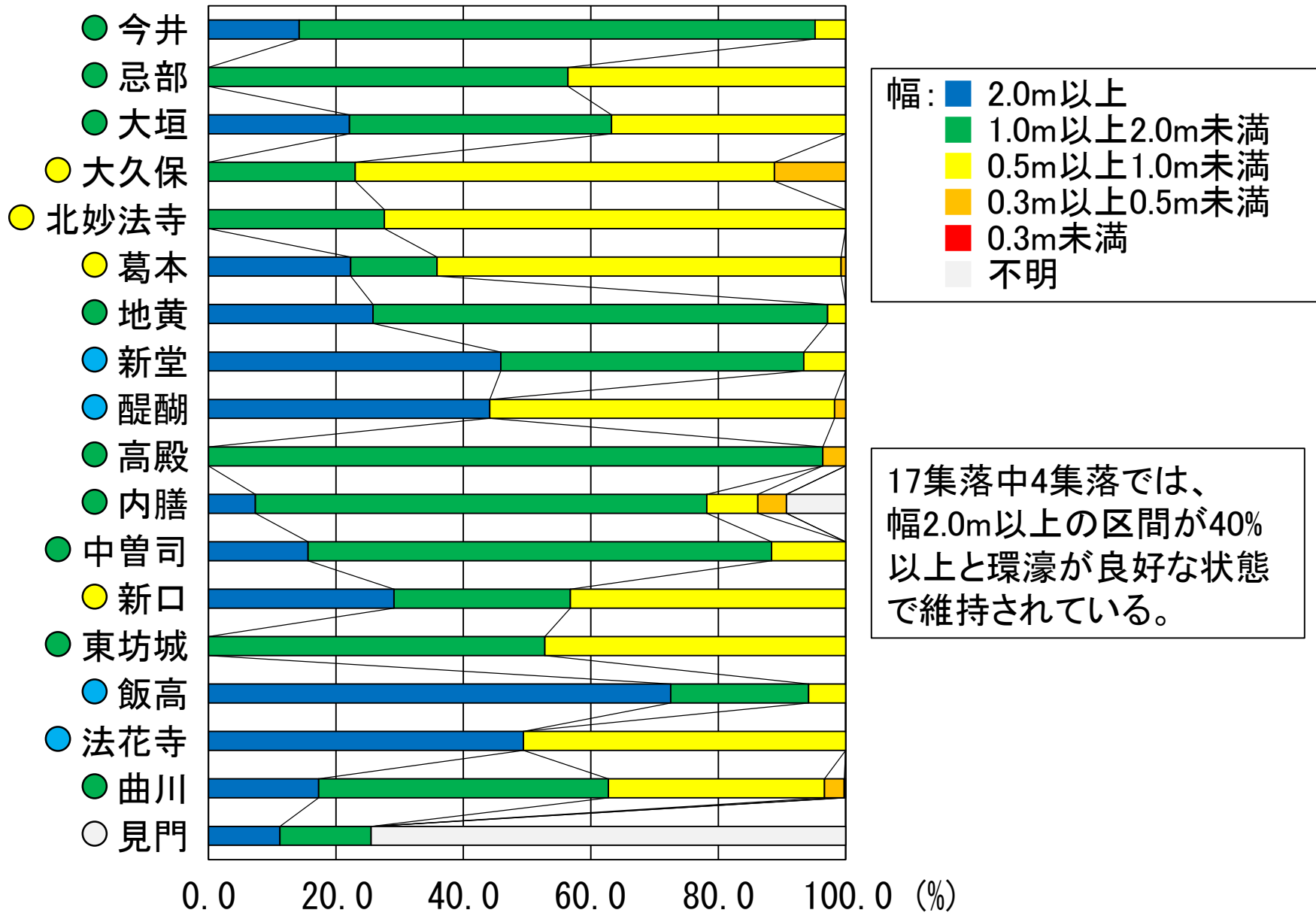
現在

1:2500白地図(平成18年),現地調査

2 4 集落の環濠の現在の開渠率（残存度）



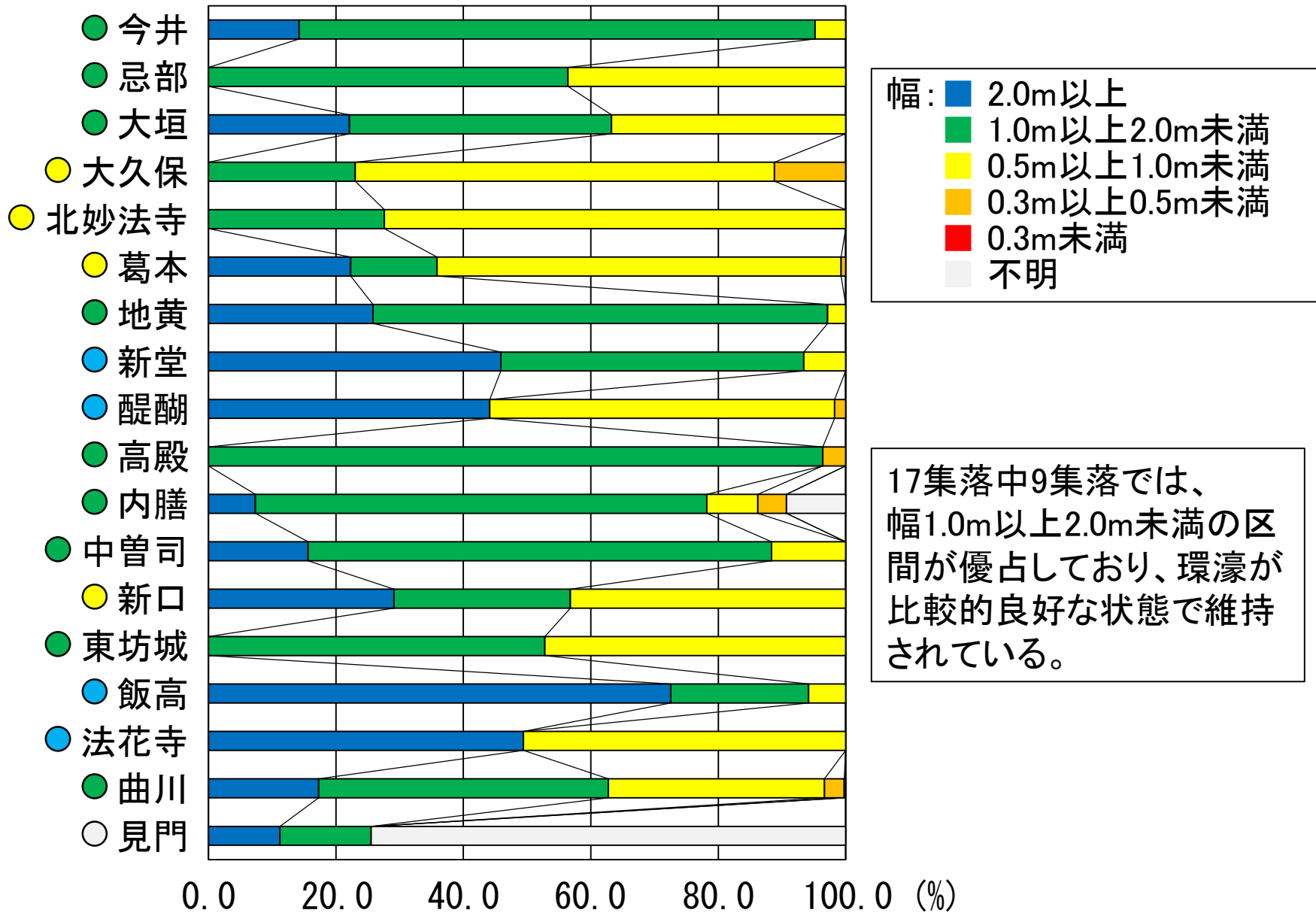
残存度が高い18集落の環濠の現在の状態



残存度が高い18集落の環濠の現在の状態



残存度が高い18集落の環濠の現在の状態



残存度が高い18集落の環濠の現在の状態

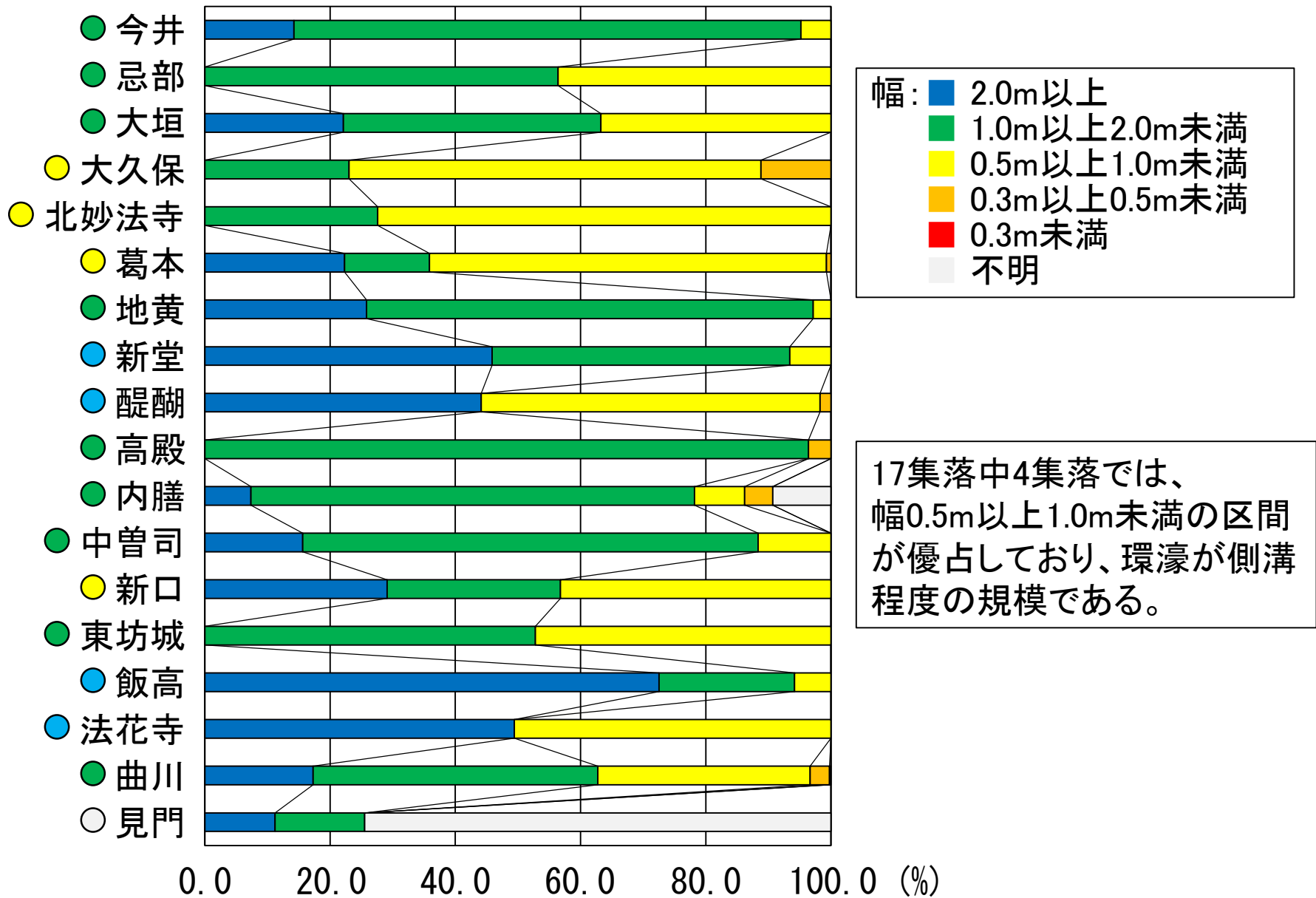
地黄



高殿



残存度が高い18集落の環濠の現在の状態



残存度が高い18集落の環濠の現在の状態

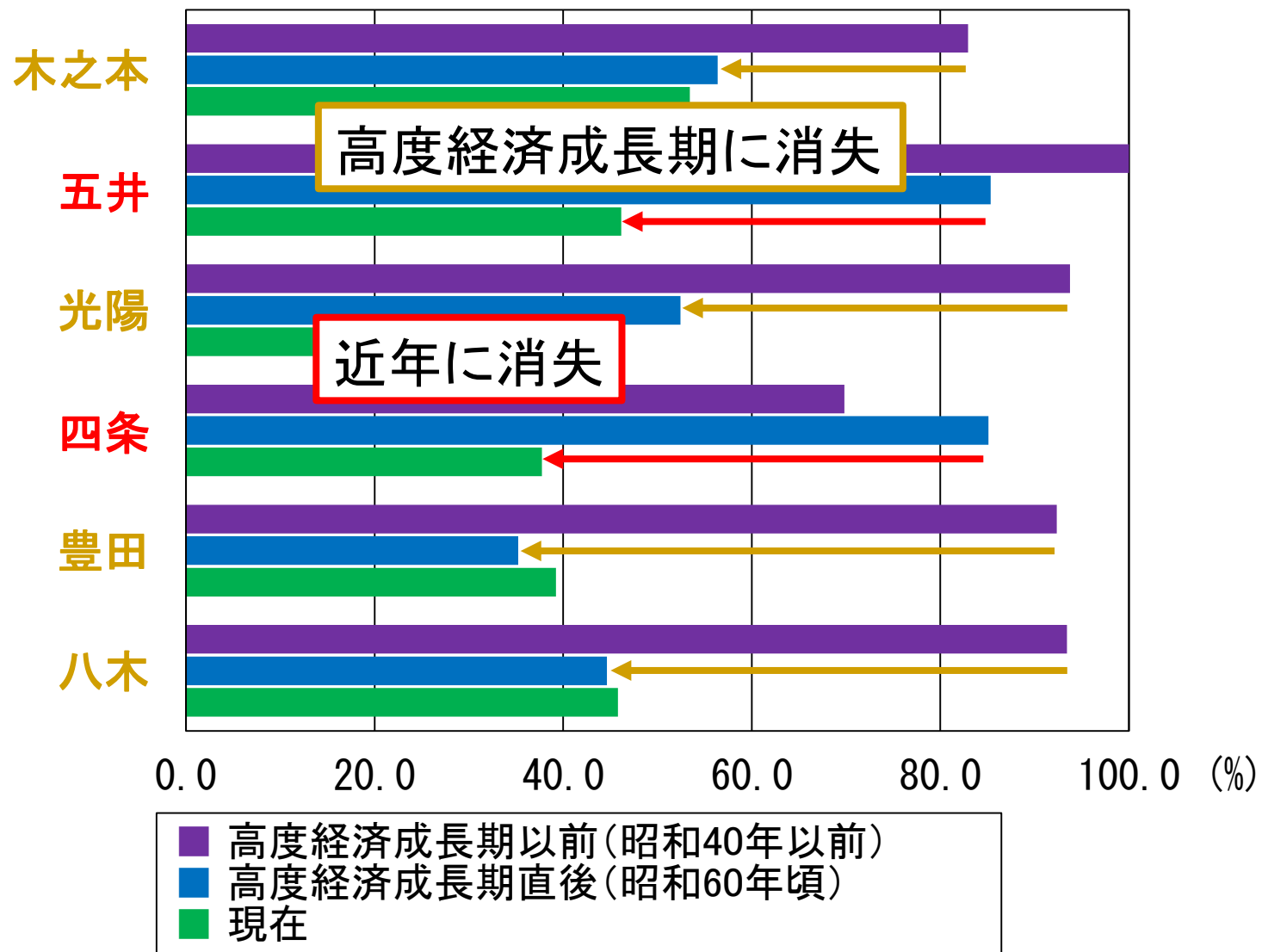
大久保



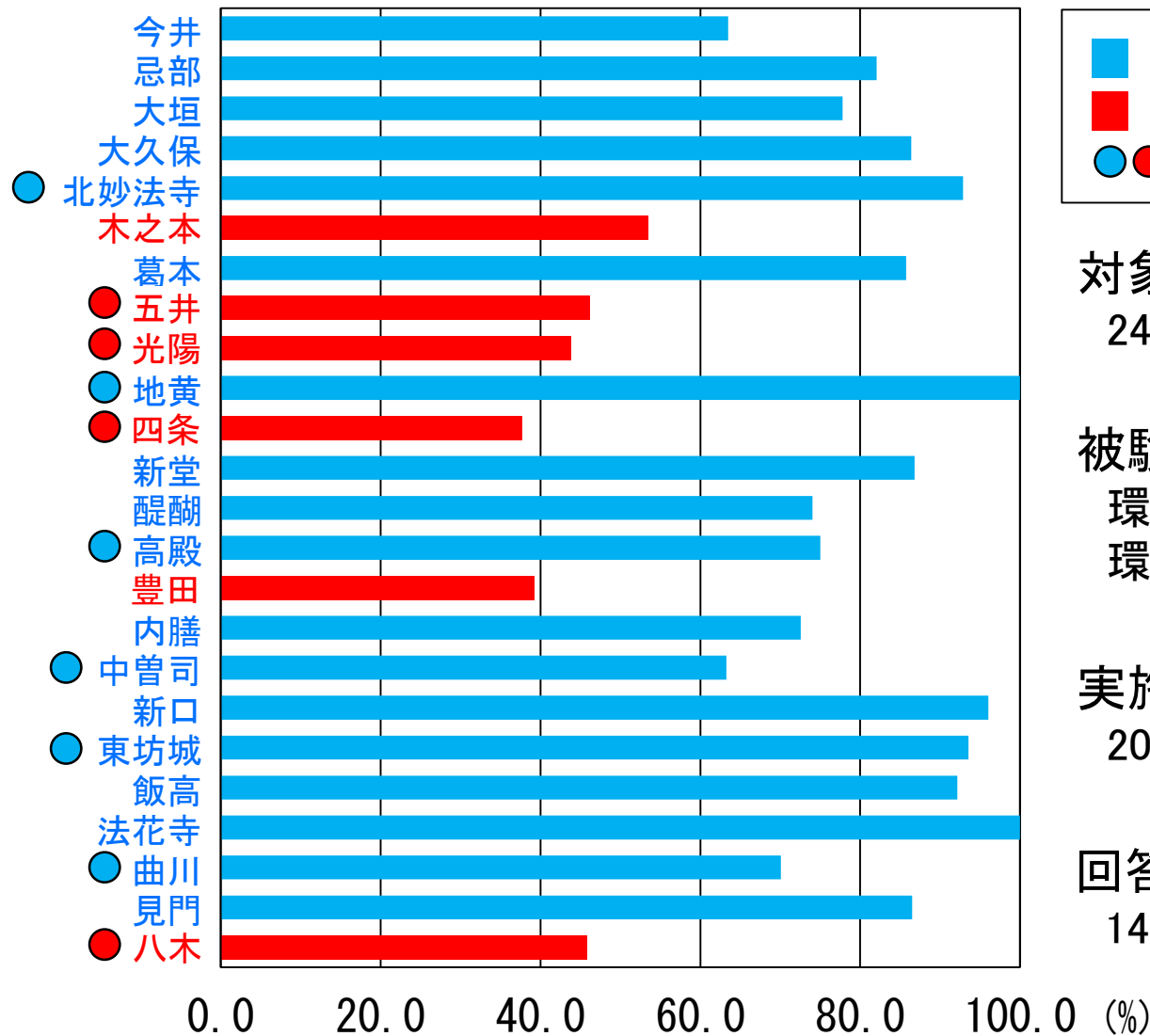
北妙法寺



残存度が低い6集落の環濠の変遷



アンケート調査方法



■ 残存度高(18集落)
■ 残存度低(6集落)
●○ 対象集落(10集落)

対象集落
24集落→10集落

被験者
環濠内の居住者
環濠外の居住者

実施時期
2015年11月～12月

回答率
14.2%

24集落の環濠の現在の開渠率(残存度)

アンケート調査方法

設問項目

環濠に対する意向

- ・ 環濠の認知
- ・ 環濠の認知時期
- ・ 環濠の認知方法
- ・ 環濠が元々保有していた役割に対する認識
- ・ 環濠の保全意向とその理由(期待している役割、または残したくない理由)

帰属意識

- ・ 地域への愛着
定住意向、土地の重要性、住民の重要性、住みやすさ、所属意識
- ・ 地縁団体への関わり(団体:土地改良区または水利組合、自治会、
老人会、婦人会、子供会、趣味のサークル)
所属状況、参加頻度、環濠との関わり(例:環濠の掃除など)

領域感(サインマップ法)

- ・ 知っている環濠の位置
- ・ 近所だと思っている範囲
- ・ 自分の集落だと思っている範囲

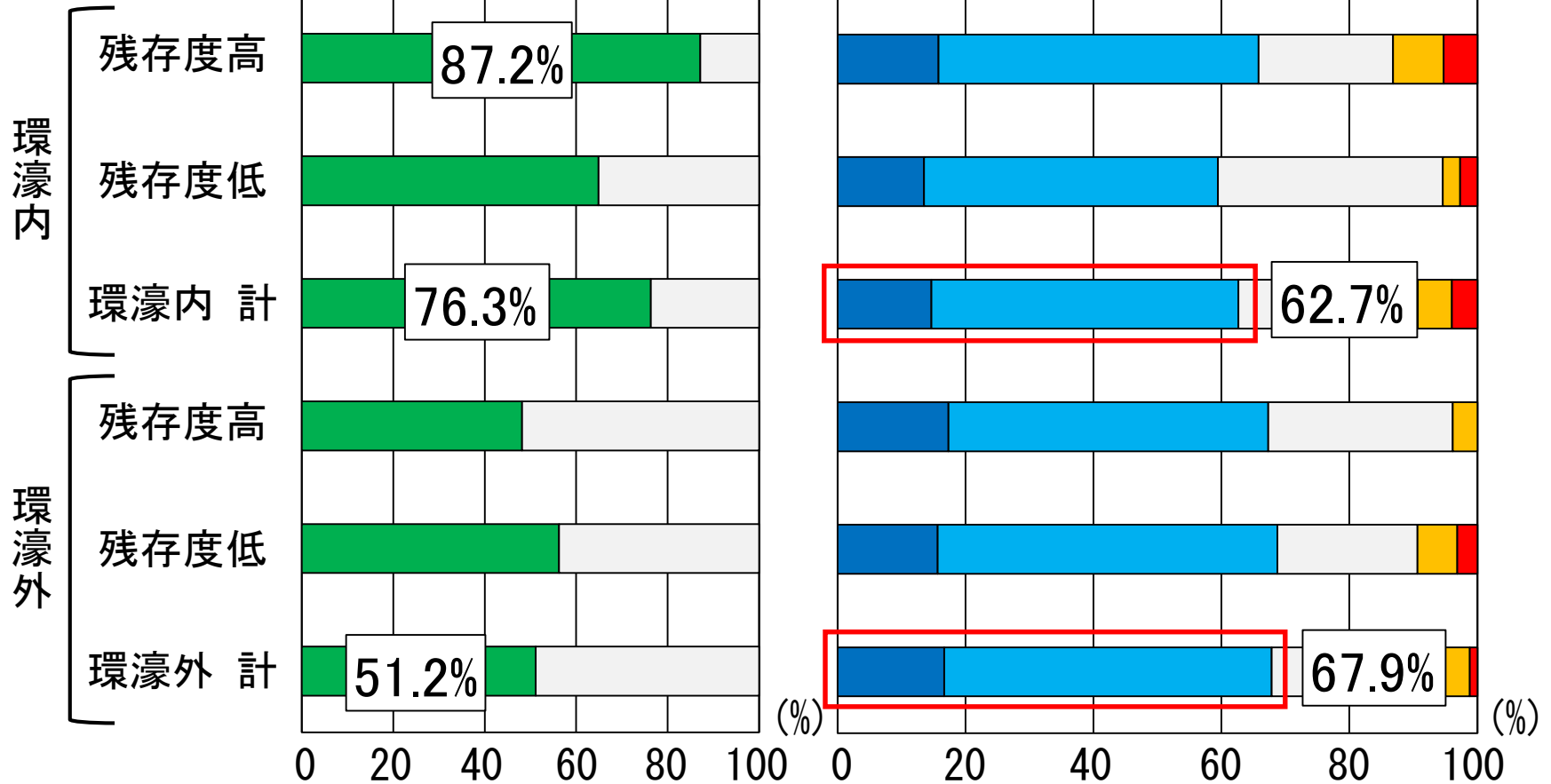
解析対象(居住地×環濠の残存度)

- ・ 環濠内┐残存度高(39名)
└残存度低(38名)
- ・ 環濠外┐残存度高(54名)
└残存度低(32名)

環濠の認知度、環濠の保全意向

環濠の認知度

環濠の保全意向



■ 知っている
□ 知らない

■ ぜひ残していきたい

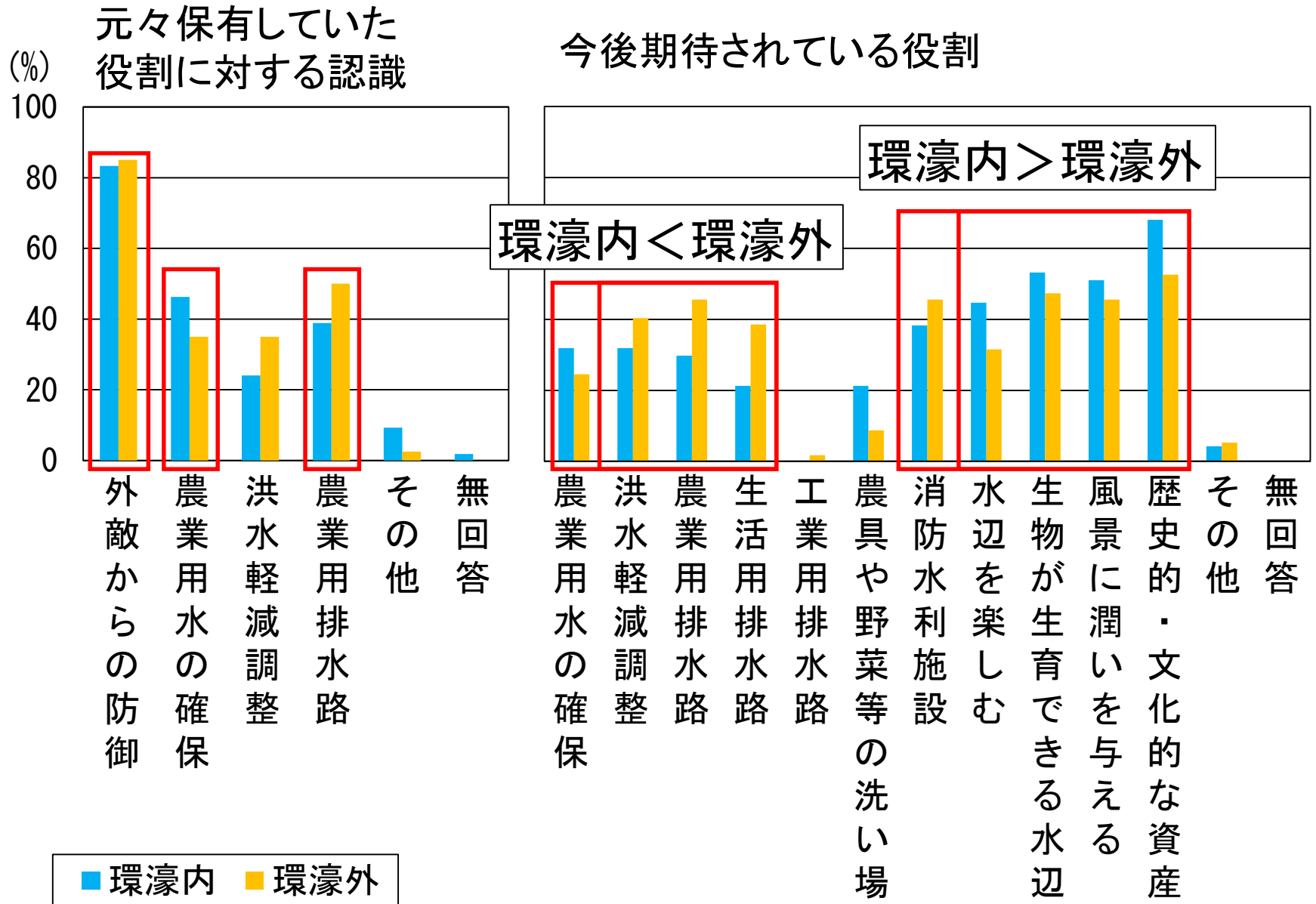
■ できれば残していきたい

□ どちらでもない

■ あまり残していきたいと思わない

■ 全く残していきたいと思わない

元々保有していた役割に対する認識、今後期待されている役割

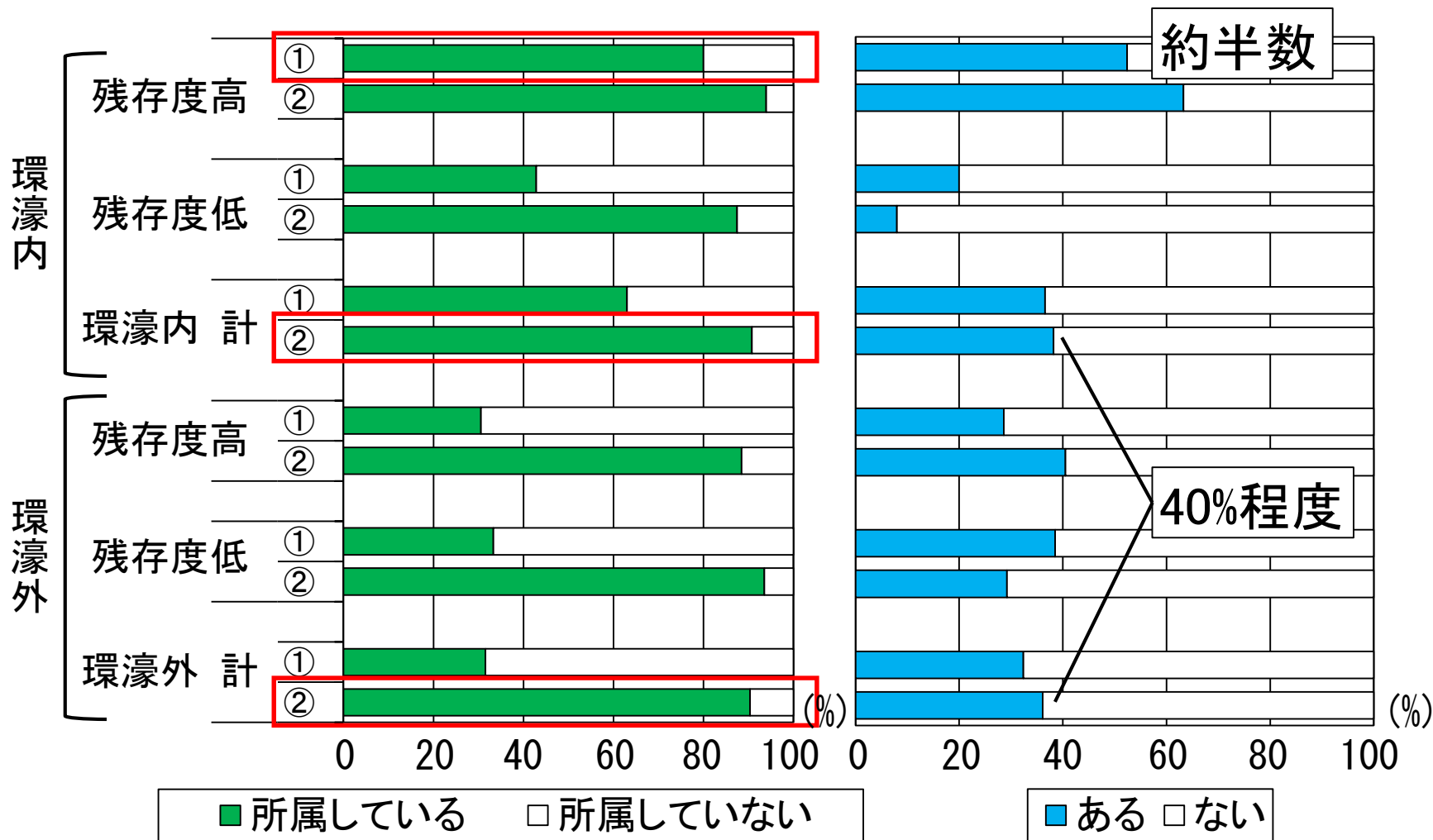


地縁団体への所属状況、地縁団体における環濠との関わり

①土地改良区または水利組合 ②自治会

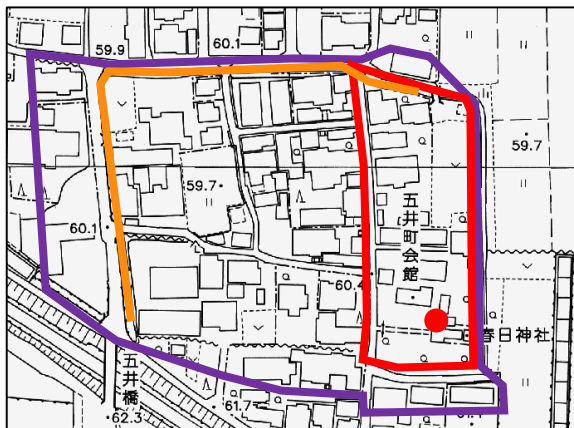
所属状況

環濠との関わり(例:環濠の掃除)

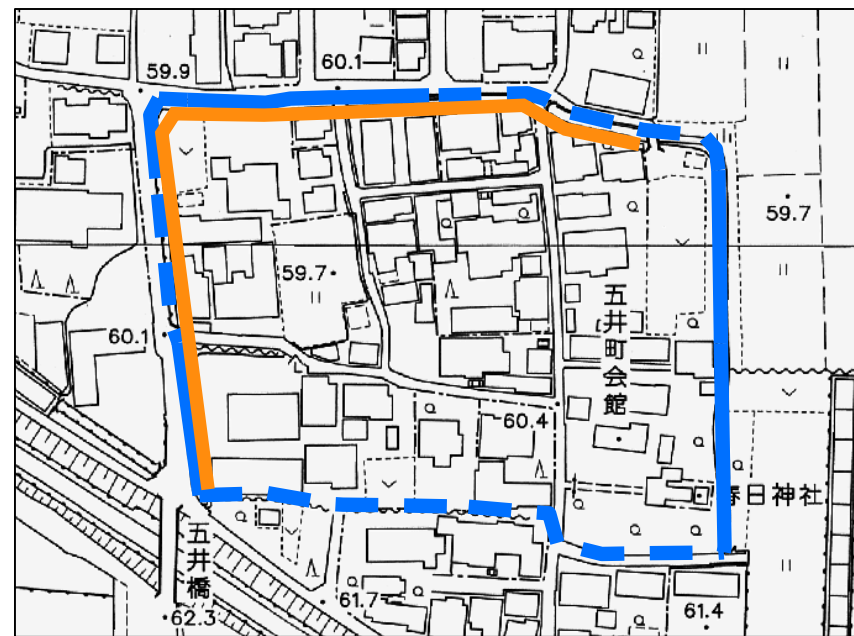


“領域感”サインマップの解析方法

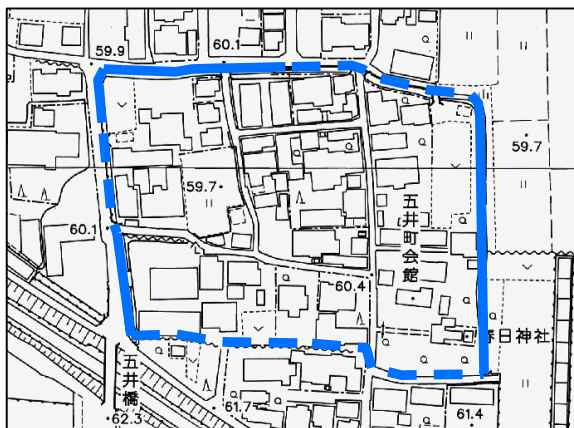
サインマップ



- 凡例
- 自宅
 - 知っている環濠の位置
 - 近所だと思う範囲
 - 自分の集落だと思う範囲



環濠の現状



環濠延長認知率

$$\frac{\text{知っている環濠の位置の距離}}{\text{環濠延長}} \times 100 (\%)$$

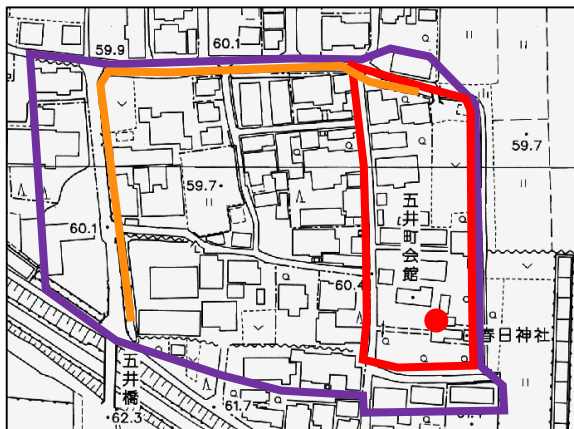
残存延長認知率

$$\frac{\text{知っている環濠の位置の距離}}{\text{残存延長}} \times 100 (\%)$$

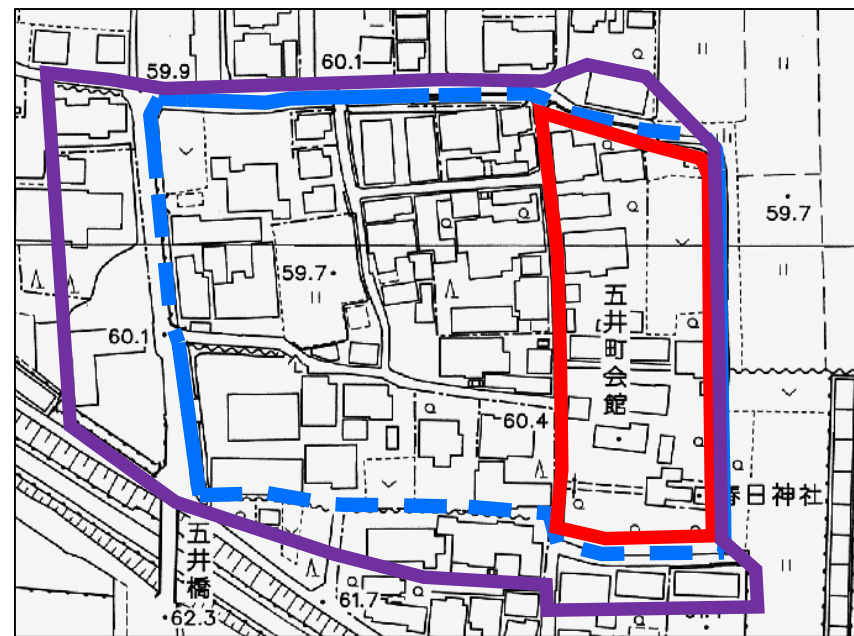
- 凡例
- 環濠延長
 - 残存延長

“領域感”サインマップの解析方法

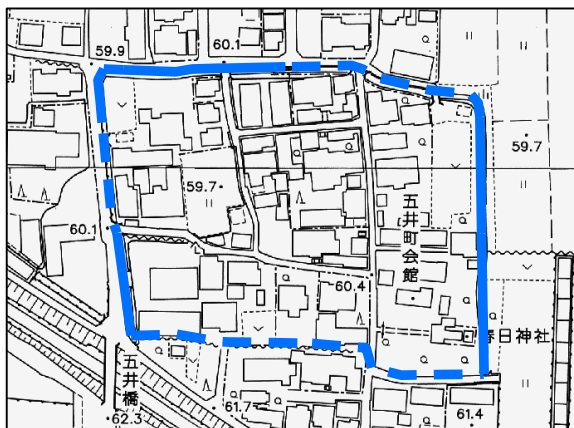
サインマップ



- 凡 ● 自宅 — 知っている環濠の位置
 □ 近所だと思ふ範囲
 例 □ 自分の集落だと思ふ範囲



環濠の現状



近所圏を表す領域が環濠に一致した割合

$$\frac{\text{近所だと思ふ範囲の周長}}{\text{環濠延長}} \times 100 (\%)$$

集落圏を表す領域が環濠に一致した割合

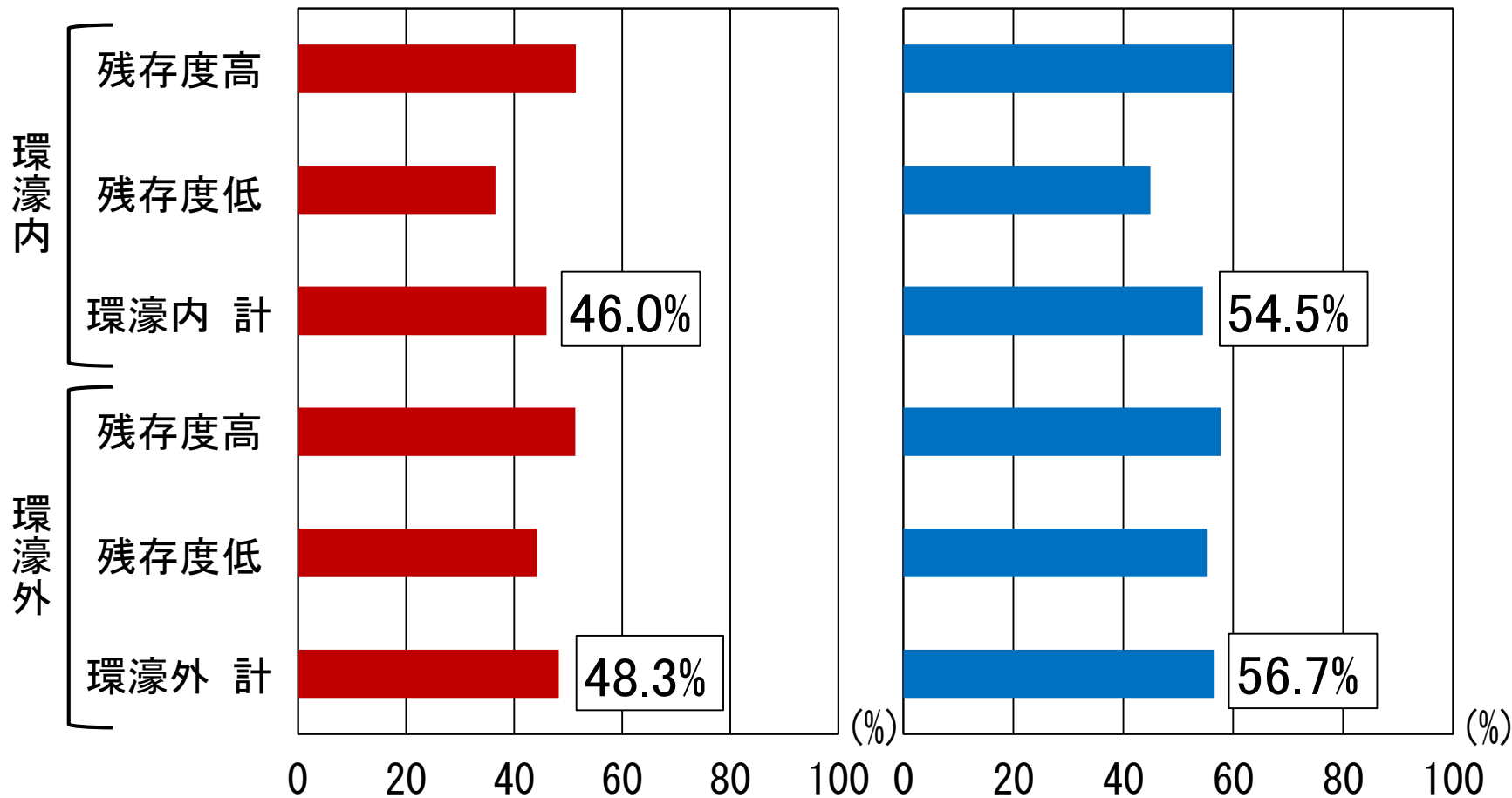
$$\frac{\text{自分の集落だと思ふ範囲の周長}}{\text{環濠延長}} \times 100 (\%)$$

- 凡例 ---- 環濠延長 — 残存延長

サインマップにより捉えた環濠の認知状況

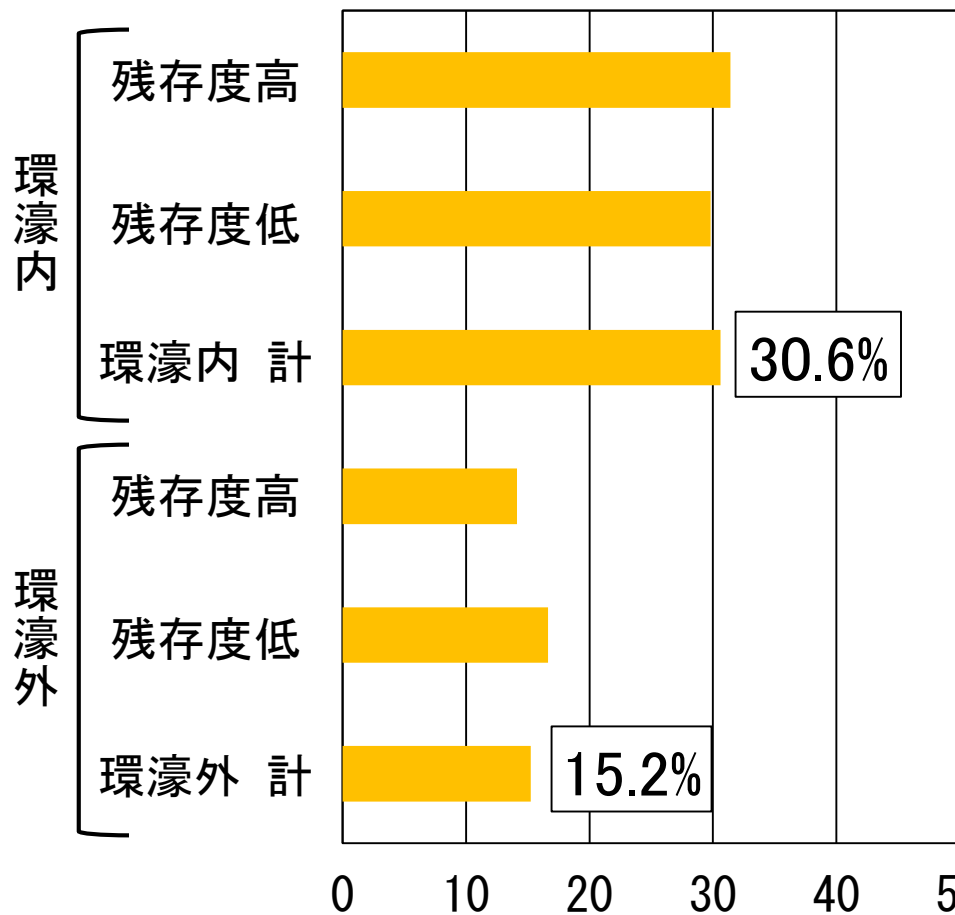
環濠延長認知率

残存延長認知率

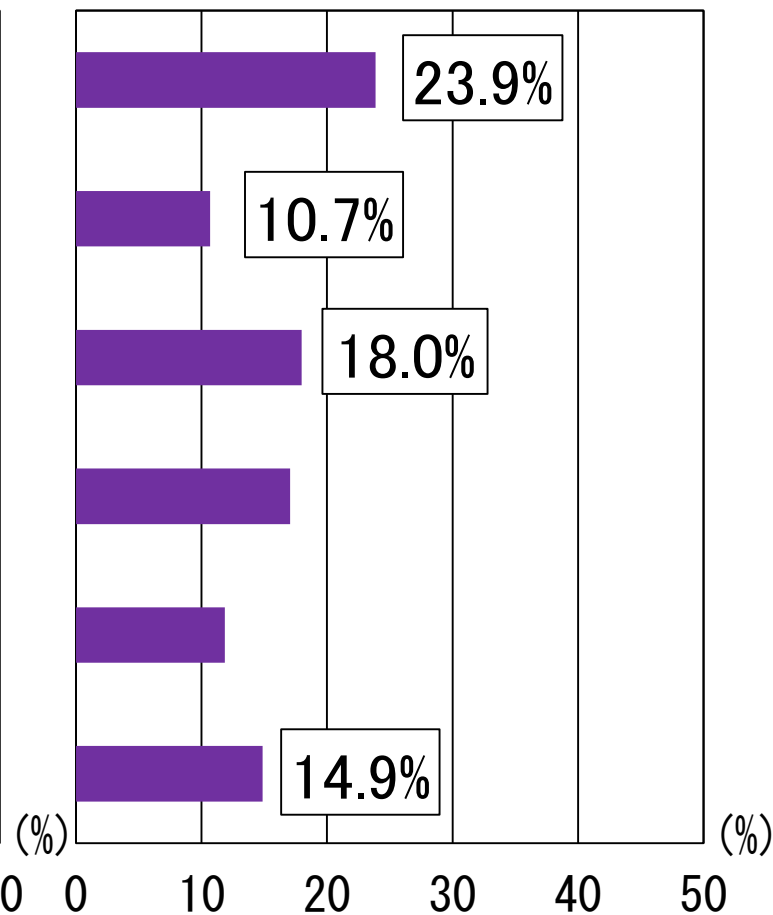


サインマップにより捉えた環濠と領域感の関係

近所圏を表す領域が
環濠に一致した割合



集落圏を表す領域が
環濠に一致した割合



檀原市の環濠の残存状況

24集落中18集落では、環濠は残存度が6割以上と比較的継承されている。

残存度の高い集落の環濠の保全状態

18集落中4集落では、幅2.0m以上の区間が40%以上を占めており、環濠が良好な状態で維持されている。

18集落中9集落では、幅1.0m以上2.0m未満の区間が優占しており、環濠が比較的良好な状態で維持されている。

残存度の低い集落の環濠の消失時期

木之本、光陽、豊田、八木の4集落では、環濠は高度経済成長期に失われたものと考えられる。

五井、四条の2集落では、近年においても環濠の消失傾向が続いている。

環濠周辺の居住者意識

- ・ 環濠の認知や保全意向、地域への愛着は環濠内外の居住地に関わらず一定以上高い。
- ・ 従来の農業関係の役割に加えて、風景に潤いを与える、生物が生育できる水辺等の新たな役割が期待されている。
- ・ 環濠の存在が環濠内居住者の身近な領域感の形成に寄与する。
- ・ 環濠内外の居住者の大半が自治会に所属しているが、環濠との関わりは少ない。

環濠の保全活動を誘発させるためのポテンシャルは十分にあるが、まだ活動はあまり起こっていない。

自治会へ環濠との関わりを呼びかけたり、居住者が期待する新たな役割に応じた機能を高めていくことで、環濠の保全活動のポテンシャルを顕在化させることによって、環濠の存在と居住者意識の好循環が生まれ出されると考えられる。